

よりどりインドネシア第25号

(2018年7月9日発行)

～ おかげさまで、発刊から1年が過ぎました。2年目に突入です！ ～



パプア州メラウケの海岸近くで湧く温泉場で洗濯をする人々
(2001年8月25日、パプア州メラウケ県にて)

統一地方首長選挙の結果：州知事編（その1）（松井和久）	2
インドネシアへの中国投資の現状（松井和久）	13
ロンボクだより（10）：“kasih pinjam”の謎（岡本みどり）	18
ママが編むパプアの伝統バッグ「ノケン」（松井和久）	21

統一地方首長選挙の結果：州知事編（その1）

2018年6月27日は、17州、115県、39市の計171自治体で行われた、統一地方首長選挙の投票日でした。

各投票所では、投票終了後すぐに、各候補ペアの支持者代表や住民が見守るなか、一票一票、確認しながら開票が進められます。開票終了後、各候補ペアの支持者代表の署名をもって、正式な投票時レベルでの開票結果となり、投票箱に入れたまま、上位レベルへ送られます。

選挙委員会（KPU）は投票所ごとの開票結果をウェブで公開するので、そのデータが実際の投票所で見たデータと同じかどうか、検証できる仕組みになっているようです。ただし、7月8日時点では、選挙委員会のウェブサイトにはつながらず、まだ公表されていない様子です。

今回の地方首長選挙については、候補者分析や各政党が候補者ペアを支持するに至った経緯など、細かく調べれば調べるほど、ローカルレベルの政治構造を理解するためのとても興味深い結果が出てきそうです。

ただし、入票結果速報の出ているのが現時点では州知事選挙のみとなっているため、今号と次号に分けて、その17州の州知事選挙の結果を見ていき、次号で州知事選挙全体から見えることをまとめることにします。

●北スマトラ州知事選挙：僅差で軍人出身知事が誕生へ

北スマトラ州知事選挙は、当初、3組の候補ペアの戦いになると予想されていましたが、立候補番号3番のペアの州知事候補者の学歴詐称が明らかになり、選挙委員会から立候補が認められませんでした。

このため、立候補番号1番の **Edy Rahmadi**（前陸軍戦略予備軍司令官）＝ **Musa Rajekshah**（州赤十字委員長）と、2番の **Djarot Saiful Hidayat**（前ジャカル

タ首都特別州知事) = Sihar Sitorus (人材開発・文化担当調整大臣付専門家)の2ペアで戦うこととなりました。



(出所) <http://medan.tribunnews.com/2018/05/28/polling-pilgub-sumut-edy-ijeck-vs-djarot-sihar-makin-seru-sebulan-jelang-pencoblosan>

1 番を支持する政党は、福祉正義党 (PKS)、ハヌラ党、ゴルカル党、国民信託党 (PAN)、グリンドラ党、ナスデム党であり、2 番を支持する政党は、闘争民主党 (PDIP) と開発統一党 (PPP) でした。

開票結果は、1 番の Edy = Musa 組が得票率 57.67% の 298 万 6648 票を獲得して当選しました。

結果は僅差でした。闘争民主党による候補者選びが難航し、ギリギリになって、Djarot 前ジャカルタ首都特別州知事を立てました。その出遅れが響いたというべきか、それでも予想以上に健闘したというべきか。

新知事になる Edy 退役陸軍中將は、アチェ州サバンの出身ですが、軍人だった父親が州都メダンの出身で、彼自身も、陸軍戦略予備軍司令官の前にスマトラ島北部を管轄するブキット・バリサン陸軍区司令官を務めるなど、北スマトラ州では馴染みのある人物です。また、新副知事となる Musa 氏はメダン在住の若手実業家です。

● リアウ州知事選挙：現職が敗北

リアウ州知事選挙は、4組の候補ペアで争われました。1番は Syamsuar (シアク県知事) = Edy Nasution (軍人)、2番は Lukman Edy (国会議員、元後進地域開発担当大臣) = Hardianto (州議会議員)、3番は Firdaus (プカンバル市長) = Rusli Effendi (開発統一党中央幹部)、4番は Arsyadjuliandi Rachman (現州知事) = Suyatno (ロカン・ヒリル県知事) です。



(出所) <http://pekanbaru.tribunnews.com/2018/06/24/pilgubri-27-juni-2018-ingat-inilah-nomor-urut-pasangan-calon-gubernur-riau-dan-wakil-gubernur>

1番を支持する政党は国民信託党 (PAN)、ナスデム党、福祉正義党 (PKS) の3党であり、2番は民族覚醒党 (PKB) とグリンドラ党、3番は民主党と開発統一党、4番はゴルカル党、闘争民主党 (PDIP)、ハヌラ党でした。

開票結果は、以下の通りで、1番の Syamsuar = Edy 組が得票率 39.35% に当たる 76 万 4378 票を獲得して優位に立っています。それを追うのが4番の現職のペアですが、24.83%、48 万 2238 票で1番に差をつけられています。以下、3番、2番の順となっています。

州知事になりそうな Syamsuar 氏は、シアク県で郡長や歳入局長を経て、県副知事、県知事を務めてきた叩き上げの役人です。県知事時代に行政サービス向上など様々な成果を上げ、毎年のように中央政府から表彰され、具体的な実績を積

んで、全国的に注目されていた県知事の一人です。

●南スマトラ州知事選挙：父から息子への移譲ならず

南スマトラ州知事選挙は、4組の候補ペアで争われました。候補ペア番号1番は Herman Deru (元東オガン・コメリン・ウル県知事) = Mawardi Yahya (元オガン・イリール県知事)、2番は Saifudin Aswari Rivai (ラハット県知事) = Muhammad Irwansyah (パンカルピナン市長)、3番は Ishak Mekki (州副知事) = Yudha Pratomo (州青年実業家協会 (HIPMI) 会長)、4番は Dodi Reza Alex Noerdin (ムシ・バニユアシン県知事) = Giri Ramanda Kiemas (州議会議長) です。



(出所) <https://gcdn.cf/images/gatracom/2017/erry/04-Apr/4.10.10.jpg>

1番を支持する政党は国民信託党 (PAN)、ナスデム党、ハヌラ党の3党、2番はグリンドラ党と福祉正義党 (PKS)、3番は民主党、開発統一党 (PPP)、月星党 (PBB) の3党、4番は闘争民主党 (PDIP)、ゴルカル党、民族覚醒党 (PKB) の3党でした。

4番の Dodi 氏は2期務めた現州知事の息子で、父親から息子への知事職継承が実現するかどうか焦点となりました。州議会の議席数や知名度などの点で、4

番の勝利が予想されましたが、開票結果は異なりました。

すなわち、1番が得票率 35.96% の 139 万 4438 票を獲得して当選し、4番は得票率 30.96% と僅差で次点となりました。父親から息子への一族支配への反発があったのでしょうか。

新知事となりそうな Herman 氏は実業家出身で、東オガン・コメリン・ウル県知事を2期務めています。州副知事となりそうな Mawardi 氏も、オガン・イール県知事を2期務めています。

●ランブン州知事選挙：3組が現職ペアに挑む

ランブン州知事選挙も4組の候補ペアで争われました。候補ペア番号1番は Muhammad Ridho Ficardo (現州知事) = Bachtiar Basri (現州副知事)、2番は Herman HN (バンドルランブン市長) = Sutono (ランブン州官房長)、3番は Arinal Djunaidi (元ランブン州官房長) = Chusnunia Chalim (東ランブン県知事)、4番は Mustafa (中ランブン県知事) = Ahmad Jajuli (地方代議会 (DPD) 議員) です。



(出所) <https://kabarpersada.com/2018/06/27/hasil-quick-count-pilgub-lampung-2018-versi-saiful-mujani/>

支持政党は、1番が民主党、グリンドラ党、開発統一党 (PPP) の3党、2番が闘争民主党 (PDIP)、3番がゴルカル党、民族覚醒党 (PKB)、国民信託党 (PAN)

の3党、4番がナスデム党、福祉正義党 (PKS)、ハヌラ党の3党でした。

2期目を目指す現職ペアに3組が挑む形となりましたが、開票結果は、現職ペアの敗北となりました。すなわち、当選したのは3番で、得票率 37.78%、154 万 8506 票を獲得しました。以下、得票順は2番、1番、4番の順でした。

次期知事となりそうな Arinal 氏はゴルカル党州支部長で、元々は農業普及員の出身で、州林業局長などを経て州知事補佐、官房長と行政官としてのキャリアを積んできました。副州知事となりそうな Chusnunia 氏は国会議員から東ランプン県知事へ転身した 35 歳の女性です。

●西ジャワ州知事選挙：予想外の結果

西ジャワ州知事選挙も、4組の候補ペアで争われました。1番は Ridwan Kamil (バンドゥン市長) = Uu Ruzhanul Ulum (タシクマラヤ県知事)、2番は Tubagus Hasanuddin (闘争民主党所属国会議員) = Anton Charliyan (前州警察長官)、3番は Sudrajat (退役陸軍少将、元中国大使) = Ahmad Syaikh (前ブカシ市副市長)、4番は Deddy Mizwar (州副知事、俳優) = Dedi Mulyadi (プルワカルタ県知事) です。

1番を支持するのはナスデム党、民族覚醒党 (PKB)、開発統一党 (PPP)、ハヌラ党の4党、2番は闘争民主党 (PDIP)、3番はグリンドラ党、福祉正義党 (PKS)、国民信託党 (PAN) の3党、4番は民主党とゴルカル党の2党、でした。

当初は、2・3・4番の三つ巴の激しい戦いとなり、主要政党の支持を取り付けられなかった1番はかなり苦戦、という下馬評でした。

ところが、開票結果は、意外にも下馬評を覆すものとなりました。苦戦と思われた1番が得票率 32.88%、722 万 6254 票で当選となり、以下、3番、4番、2番の順となりました。



(出所) <http://www.monitor.web.id/2018/02/keempat-paslon-pilgub-jabar-2018-punya.html>

新知事になる Ridwan Kamil 氏は、バンドゥン市長としての実績を積み、次世代を担う新しいタイプの開明的な政治家で、注目株の一人です。日本好きの政治家としても有名で、彼が市長を務めたバンドゥン市と姉妹都市の浜松市をはじめとして、西ジャワ州の日本との関係がより深まることが期待されます。

西ジャワ州は、従来からイスラム色の強い保守的な地盤として有名です。また、3番を支持する3党が中央レベルでもジョコウィ政権に対して野党的な立場をとっており、もし3番が勝利すれば、来年の大統領選挙への影響が考えられるところでした。今回の予想外の結果が何を意味するのか、じっくりと考える必要があります。

●中ジャワ州知事選挙：現職再選も意外な僅差

中ジャワ州知事選挙は2組の候補ペアで争われました。1番は Ganjar Pranowo (現州知事) = Taj Yasin Maimoen (州議会議員)、2番は Sudirman Said (元

エネルギー・鉱産資源大臣) = Ida Fauziyah (国会議員) で、現職に元大臣が挑む展開となりました。

PASANGAN CALON GUBERNUR DAN WAKIL GUBERNUR JATENG 2018

JANGAN LUPA ... RABU PON 27 JUNI 2018

KE TPS, MEMBAWA FORM C6 & KTP-EL/ SURAT KETERANGAN

(出所) <http://kpu-purbalinggakab.go.id/images/Slide/Materi-Web.jpg>

1 番を支持する政党は闘争民主党 (PDIP)、民主党、ナスデム党、開発統一党 (PPP)、ゴルカル党の 5 党、2 番はグリンドラ党、福祉正義党 (PKS)、民族覚醒党 (PKB) の 3 党です。

当初から現職が圧倒的に優勢という下馬評でしたが、実際の開票結果は、圧勝とはいえないものでした。

すなわち、1 番が得票率 58.8%、1019 万 7593 票 (速報値) を獲得して当選しましたが、2 番が予想以上に健闘した印象です。

再選される Ganjar 氏は、闘争民主党所属の国会議員から州知事へ転身した人物です。官僚的な行政システムの改善に取り組んでいます。基本的に、まだ政党政治家の枠から飛び出せていない印象があります。

●東ジャワ州知事選挙：NU を二分する厳しい選挙

東ジャワ州知事選挙は、中ジャワ州と同様、2 組の候補ペアが立候補しました。1 番は Khofifah Indar Parawansa (前社会大臣) = Emil Dardak (トレンガ

レク県知事)、2番は Saifullah Yusuf (州副知事、元後進地域開発担当大臣) = Puti Guntur Soekarno (国会議員、スカルノ初代大統領の孫) です。Khofifah 氏は前回に引き続いての州知事選挙立候補でした。



(出所) <https://i1.wp.com/kabarrakyat.id/wp-content/uploads/2018/04/Pilkada-Jawa-Timur-2018-Kabar-Rakyat-id.jpg?resize=720%2C504&ssl=1>

1番を支持するのは民主党、ゴルカル党、開発統一党 (PPP)、ナスデム党、国民信託党 (PAN)、ハヌラ党の6党です。一方、2番は民族覚醒党 (PKB)、グリンドラ党、闘争民主党 (PDIP)、福祉正義党 (PKS) の4党です。

現職の Sukarwo 州知事は2期とも Saifullah 氏を州副知事としてペアを組みましたが、民主党東ジャワ州支部長であるため、今回は、前回自らと対決した Khofifah 氏を支持し、盟友だった Saifullah 氏に対抗する、という皮肉なめぐり合わせとなっています。

また、Khofifah 氏も Saifullah 氏も、国内最大のイスラム社会団体であるナフダトゥール・ウラマ (NU) の幹部であり、NU を割る選挙となりました。

事前の予想では両者ほぼ互角で、実際、どちらが勝つか予断を許さない状況と見

られていました。

開票結果はまだ公表されていませんが、いくつかの民間機関による予想結果では、1番が過半数を制して、優勢であると報じられています。このまま1番が当選するにしても、東ジャワ州行政が大きく変わることはないと思われます。

なお、1番の州副知事候補の Emil 氏は、立命館アジア太平洋大学において最年少で博士号をとった人物で、日本との関係強化への期待があります。

●バリ州知事選挙：汚職疑惑は繰り返されるのか

バリ州知事選挙は、2組の候補ペアで争われました。1番のペアは Wayan Koster (国会議員) = Tjokorda Oka Artha Ardana Sukawati (元ギアニャール県知事)、2番は Ida Bagus Rai Dharmawijaya Mantra (デンパサール市長) = I Ketut Sudikerta (州副知事) です。



(出所) <http://www.inibali.com/2018/01/pilkada-bali-2018-gubernur-pastika.html>

1番を支持する政党は闘争民主党 (PDIP)、ハヌラ党、民族覚醒党 (PKB)、国民信託党 (PAN)、統一正義党 (PKPI) の5党です。一方、2番を支持するのは、ゴルカル党、ナスデム党、民主党、グリンドラ党、福祉正義党 (PKS)、月星党 (PBB) の6党です。

開票結果は、1番が得票率57.62%、121万1556票を獲得して当選しました。Wayan氏はこれまで何度も汚職撲滅委員会(KPK)の取り調べを受けたことのある人物であることに留意する必要があります。

●残りの結果解説とまとめは次号で

本稿で触れられなかった西ヌサトゥンガラ州、東ヌサトゥンガラ州、西カリマンタン州、東カリマンタン州、南スラウェシ州、東南スラウェシ州、マルク州、北マルク州、パプア州の州知事選挙の結果についての解説、および州知事選挙全体のまとめは、次号で行う予定です。

(松井和久)

インドネシアへの中国投資の現状

情報ウェブマガジン「よりどりインドネシア」では、これまでも何度かインドネシアへの中国投資について触れてきましたが、現状はどうなっているのか、ここで少し触れておきたいと思います。

2018年4月12～14日、ルフット・パンジャイタン海事担当調整大臣が中国を公式訪問しました。この席で、インドネシアと中国は、中国の一带一路構想に基づき、5案件、総額233億ドルの協力協定に調印しました。

この5案件には、北カリマンタン州カヤン川の水力発電所建設(20億ドル)、石炭を原料とするジメチルエーテル(DME)製造開発(7億ドル)、北カリマンタン州カヤン川水力発電所の合弁企業への投資(178億ドル)、バリ州での発電所の合弁企業への投資(16億ドル)、製錬所(12億ドル)が含まれています。



北カリマンタン州を流れるカヤン川

(出所) <http://beritadaerah.co.id/2017/05/16/luhut-tawarkan-plta-sungai-kayan-kalimantan-utara-di-tiongkok/>

このほか、同時に、電気自動車・二輪車開発と北カリマンタン州タナクニン・マクパディ工業団地建設に関する覚書も調印されました。

●インドネシアの北部を攻める中国投資

ルフット調整大臣によると、中国との協力の重点拠点事業は次の国内4カ所と
いうことです。すなわち、(1) 北スマトラ州クアラナム空港周辺の工業団地とア
エロシティ建設、(2) 北カリマンタン州タナクニン・マンクパディ工業団地建設、
(3) 北スラウェシ州ビトゥン市のレンベ国際空港及び工業団地建設とリクパン
観光開発、(4) バリ州のテクノパーク及び高速道路建設、です。

これをみると、中国の戦略が明確に見て取れます。すなわち、バリを除いて、イ
ンドネシアで最も北に位置する要所を抑えています。

もちろん、これは、中国の東南アジアから太平洋へ向けての海洋進出の一環であ
り、インドネシアとの間で領海問題を起こしているナトゥナ諸島海域での中国
の優位を確立する目的もあります。

そして、結果的にそれは、日本や中国との今後の経済関係の発展を見据えて、イ
ンドネシアの北の国境付近を開発したいインドネシア側の思惑と一致する形と
なっています。

中国側は、インドネシアを東南アジアで最も投資しやすい国の一つとみており、
とくに、投資額が25億ドル以上の外資への税インセンティブを高く評価してい
るとのことです。

●西カリマンタン州への中国投資

中国のインドネシアの国境付近への投資の動きは続いています。7月になって、
マレーシアのサラワク州との国境を接する西カリマンタン州への投資計画が公
表されました。

西カリマンタン州投資・ワンストップサービス局によると、2015年から話を進
めてきた中国からの11社がクタパン県へ進出するというものです。農業、木材

加工、エネルギーなど 11 分野への投資で、最大のものは金属加工業投資 (4681.6 億ルピア)、11 社全体でのインドネシア人向け雇用創出は 1655 人です。

西カリマンタン州は、ポンティアナクやシンカワンを中心に、華人人口が他州より相対的に多いだけでなく、華人コミュニティがしっかりと存在します。とくに、シンカワンは、祭事などで世界中から多くの華僑（とくに客家）が集まる場所であると同時に、余談ですが、台湾、中国、シンガポールなどからメールオーダーで良縁探しに来訪する場所としても名高いようです。

●パプア州ナビレ県では違法中国企業が摘発

一方、パプア州ナビレ県では、違法操業していた中国企業が摘発されました。

摘発されたのは、ナビレ県のマガウォ川で違法な金採掘を行っていた PT. Hanjun という中国企業です。日産 100 グラムの金を生産していました。



PT. Hanjun の違法金採掘現場

(出所) <https://www.imcnews.id/read/pt-hanjun-asal-china-menambang-emas-ilegal-di-kali-magowo>

この企業は、2017 年 1 月から 2018 年 4 月までの 16 ヶ月間、採掘事業許可 (izin usaha penambangan) を持たずに操業していました。同社は、ナビレ県鉱産エネルギー局の前局長が署名した案内状 (surat keterangan) しか持っていませんでした。

1 グラム当たり 50 万ルピアとすると、16 ヶ月で 240 億ルピアの国家損失をも

たらした計算になります。

パプア州鉱業エネルギー局によると、ナビレ県で金の採掘事業許可を持つ事業者は1件しかないのに、違法な金採掘で摘発されたのはこの件を含めて6件のぼるということです。

金採掘の問題は、政治家、官僚、治安当局など地元有力者との癒着の問題でもあり、この件の真偽を一概に論じることはできませんが、そうしたところにも中国企業の影が見え隠れしていることはたしかです。

違法な金採掘については、「よりどりインドネシア」第5号の以下の記事でも触れましたので、ご参照ください。

[密かに広く地方で進行する違法な金採掘](#)

●中国投資が決して支配的なわけではないが・・・

来年の大統領選挙を控え、一部の政治家やメディアでは、中国人労働力の流入などを題材に、インドネシア国内における中国の存在感の増大を警戒すべきとの見解がみられます。

2018年4月、外国人就業規制が緩和されましたが、この緩和によって、さらに中国人労働力がインドネシアへ流入するのではないかとの懸念が高まりました。その恐怖感をあおって、来年の大統領選挙を有利に進めたいと考える勢力も存在するようです。その辺については、「よりどりインドネシア」第20号の以下の記事で解説しましたので、ご参照ください。

[外国人就業規制緩和の光と影](#)

この記事を読んでいただければわかりますが、政府発表の数字で見た場合、インドネシア国内の中国人就業者数は、メディアでいわれるほど、決して多くはありません。

中国で働くインドネシア人労働者数のほうがインドネシアで働く中国人労働者数をはるかに上回っています。しかし、中国人流入に反発する側は、大量の違法中国人労働力が存在すると主張しています。

投資調整庁が発表した2018年第1四半期の国別投資実施額を見ると、1位は中国ではなく、シンガポールで投資額は26億ドル(全体の32.6%)でした。シンガポールの次が日本で14億ドル(同16.7%)、3位が韓国(9億ドル、同11.6%)で、中国は第4位(7億ドル、同8.3%)でした。

投資額でみる限り、中国投資は決して支配的とはいえません。ただし、非合法の投資がどれくらいあるのか、調べた統計はまだありません。

オンブズマンの7州における調査によると、同じ職種・職位で、中国人労働者がインドネシア人労働者の3倍の給与を得ているという結果が出て、それを問題視する声が上がっています。

他方、下記の記事では、国会議員が中スラウェシ州モロワリ県にある中国企業の精錬工場を視察した結果を発表しています。それによると、中国人労働者数はインドネシア人労働者数の1割以下で、同一労働における給与水準にも大きな格差はなく適正だった、ということでした。

[Komisi IX DPR Cek Isu Serbuan TKA China di Morowali, Begini Faktanya](#)

いずれにせよ、中国投資や中国人労働者については、今しばらく、メディアを賑わせ続けるものと思われ、注意深く見ていく必要があります。

(松井和久)

岡本みどりのロンボクだより (10)
“kasih pinjam” の謎

結婚した当初、親族たちが私の貸した本を返さないことが幾度となくありました。こちらではそういうものなのかもしれないけれど、いい気はしません。

「あなた、“pinjam”（借りる）って言ったよね。大事な本なんだよ」と悲しくなりました。

そんなある日。姑が外出先から植木鉢を持ち帰り、近所の方から “kasih pinjam” したと言いました。



kasih は辞書では愛情と書いてありますが日常的には与えるという意味でも使われます。**pinjam** は貸す／借りるの意味です。

ですので、私は “kasih pinjam” = 貸してもらった、という意味かと推察しました。しかし、姑は近所の方に植木鉢を返しませんでした。

その後もこちらの人々の “kasih pinjam” という言葉と行動を目にしては、混乱していました。誰も貸してもらったものを返さないからです。“kasih pinjam” ってなんだろう？

そういえば、結婚前、ロンボクに来た当初にこんなことがありました。

* * * * *

ロンボク島に栄養士隊員として派遣されて間もないころ。

自転車での帰宅途中に急な雨に降られました。活動先の保健所に戻るにもホームステイ先の家へと急ぐにも中途半端な距離です。私は、とにかく目に入った家に寄せてもらうことにしました。

「すみません」と声をかけると、家の人が驚いた顔で出てきました。

私が雨宿りを頼む前に、そのおばさんは、着替えの服をもってきてくれました。断りましたが着替えるように促され、「それではお借りします」とお言葉に甘えました。

翌々日だったでしょうか。借りた服をもって、再びその家を訪れました。おばさんはまたまた驚きました。「え、(服を)返しにきたの? どうして?」

今度は私が驚く番です。借りたら返すのが当たり前だと思っていたから。それなのに、おばさんは「あらあら、きれいに洗って畳んでくれて」と目を細めていました。

* * * * *

このおばさんのことを思い出すにつれ、私は自分が誤解していたのかもと考え直すようになりました。

kasih pinjam=貸してもらう=借りるではなく、単に「もらう」という意味が強いのかも…。

さらに、人々が **kasih** を省略し **pinjam** とだけ言うときも — 辞書には貸す、借

りると掲載されていますが — あげる、もらうという意味で使っているのかもしれない。

だとしたら、服を返却して驚かれたことも、貸したものが返ってこないことも、説明がつきます。

考察の正誤は私にはわかりません。けれども、私の「借りるって言ったよね！借りたら返すべき」という考えをここで抱え続けても、この地の人々と良好な関係を築けなさそうです。

自分の考えに意固地になるよりロンボクの人々と仲良くなりたいなあ！

私はついに、**kasih pinjam** とは気軽に与えて遠慮なく与えられることだ、と自分の脳内辞書を現地仕様に規定しなおしました。

もうこれ以上、「なんで返してくれないの」と怒ったり不信感に陥ったりしないでいいとわかったとき、すうっと気が楽になるのを感じました。

(岡本みどり)

ママが編むパプアの伝統バッグ「ノケン」

パプアには、ノケン (noken) という名の特有のバッグがあります。動物の皮やポリエステルなどではなく、天然の植物繊維で作られたバッグです。



かつて筆者がパプア州の州都ジャヤプラで購入したノケン
(出所) 筆者撮影 (2012年6月3日)

ノケンには、様々なものを入れて運びます。それは赤ん坊であったり、子豚であったり、イモや野菜であったり、衣類であったり、本やノートであったり、なんでも入れて運びます。

また、冠婚葬祭のときにも、ノケンを持っていきます。また、ダニ族などでは、ノケンが交換手段となります。たとえば、ある一定数のノケンと豚1頭とを交換したりします。

●ノケンを編めれば一人前の女性

豊潤と平和を象徴するとされる、ノケンを制作するのは成人女性(ママ)です。パプアでは一般に、ノケンが作れば、一人前の女性と認められます。ママが時

間をかけて編んだノケンを持って、市場へ行ったり、パーティーへ出かけたりするのでしょう。

パプアには、地域によって様々なノケンがあるのですが、大きく分けると、高地で見られるノケンと低地で見られるノケンの二つに分かれます。

●高地のノケンは頭からかける

ワメナなどの高地で見られるノケンは、布袋のような形をしており、頭からかけて、背中または胸で受け止めるように身につけます（下写真）。



(出所) <http://thetanjungpuratimes.com/2016/06/13/noken-papua-jadi-perhatian-pemerintah-untuk-dikembangkan/>

●様々なノケンの原材料

高地のノケンの主な材料は、木皮、ランの根茎、パンダナスの葉（パンダン・リーフ）などです。木の皮を穿き、それを木で叩いた後、風に当てて乾燥させてから、繊維をよって紐状にして使います。

繊維材料としては、ウンピンの材料となるムリンジョという木の実が成るグネツム科グネツム属のグネモン (*Gnetum guemon*)、ジンチョウゲ科のマフコタ・

デワ (*Phaleria macrocarpa*)、ランの一種であるディプロカウロビウム・レゼレの根茎が使われます。

材料は、種族やその居住地によっても異なります。

たとえば、中央高地に位置するビンタン山岳県では、イラクサ科キフィロフス属の仲間 (*Cypholophus gjelleripii*, *Cypholophus vaccinioides*)、クワ科イチジク属の仲間 (*Ficus arfakensis*, *Ficus comitis*, *Ficus dammaropis*)、バンレイシ科ゴニオタラムス属の仲間 (*Goniothalamus* spp.)、イラクサ科ヌノマオ属の仲間 (*Pipturus argenteus*)、ニクズク科ニクズク属の仲間 (*Myristica* spp.) といった、8種類の植物をノケンの材料としています。

また、ワメナ県のバリエム谷周辺に居住するダニ族は、イラクサ科カラムシ属 (*Boehmeria malabrica*, *Boehmeria nivea*)、ノボタン科アストロニア属 (*Astronia* spp.)、アオイ科キンゴジカ属 (*Sida rhombifolia*)、ジンチョウゲ科アオガンピ属 (*Wikstroemia venosa*) といった、5種類の植物を材料としています。



ノケンを編むダニ族の女性 (ママ)

(出所) <http://www.tabloid-wani.com/2016/06/noken-tas-tradisional-papua-terdaftar-di-organisasi-pbb.html>

●染料も自然由来

染料も自然のものを使います。バリエム谷周辺に居住するユリ族は、トベラ科トベラ属 (*Pittosporum pullifolium*) の実やノボタン科ノボタン属 (*Melastoma polyanthum*) で紫色や黒色を出し、カクチョウラン (*Phaius tankevilleae*) の葉やラン科エビネ属の仲間 (*Calanth*) コウトウシランの仲間 (*Spathoglottis*) で緑色を出し、アカネ科クチナシ属 (*Gardenia lamingtonil*) でオレンジ色を、ウコンの根茎で黄色を出します。

●アクセサリも付ける

ノケンには、アクセサリも付けます。アクセサリとしては、硬い植物の種のほか、カタツムリの殻や、インコやヒクイドリ (*Kasuari*) の羽根などの動物性のものを付けることがあります。

●低地のノケンは首からかける

一方、近年、ダイビング・スポットとして有名な、西パプア州のラジャ・アンパットなど、低地・海岸部で見られるノケンは、箱のような形をしており、首からぶら下げるのが一般的です (下写真)。



(出所) <https://travel.detik.com/domestic-destination/d-3579317/apa-saja-sih-oleh-oleh-dari-raja-ampat>

低地のノケンの材料は、高地のそれとは大きく異なります。パンダナスの葉（パ
ンダン・リーフ）のほか、湿地に生えるチガヤの一種のアランアラン草（ilalang
rawa）などを使います。

高地のノケンが木や草から繊維を取り出し、それを紐状にして編むのに対して、
低地のノケンは、むしろ葉を編むという形をとります。

●廃れるノケンが無形世界文化遺産に

パプアでも近代化が進むとともに、ノケンは時代遅れの産物として、都市部なの
では廃れていきました。パプアの各民族が長年にわたって受け継いできた伝統
とともに、ノケンも無くなっていく運命なのではないでしょうか。

そうした地元の危機感を反映したインドネシア政府の推薦を受け、ユネスコは
2012年12月4日、ノケン（正式には高地のノケン）を無形世界文化遺産に決
定し、「緊急保全リスト」に加えました。これを契機に、ノケンは世界が後押し
して、次世代へ残していくべきものと位置付けられたのでした。

自然素材で作られ、かなりの重さのものを入れても大丈夫な強さを持つノケン
は、染料等の最終処理をもう少し工夫し、デザイン性を高めれば、サブバッグと
して活用できそうな気がします。ノケンをインドネシア発のエコバッグとして
生かしていく、ということをもっと考えてみたいです。

●ノケン移動図書館

ノケン移動図書館（Noken Pustaka Papua）は、ノケンを使った面白い試みと
して注目されます。

インドネシアでは今、民間有志による移動図書館活動が始まり、船を使って離島
をまわる、馬を使って山村へ本を届ける、など地道な活動が行われています。ジ
ョコウィ大統領がそれに賛意を示し、毎月17日に郵便局を通じて移動図書館へ
本を寄付・送付する際には、郵送料を無料にする政策が実施されています。



(出所) <http://news.metrotvnews.com/peristiwa/JKRyvayk-noken-pustaka-pegiat-literasi-dari-timur-negeri>

パプアでは、ノケンに本を入れ、運搬して村々をまわるノケン移動図書館も、そうして寄付された本の受け皿の一つです。こうした活動を通じて、地方の人々が本と接する機会が増えると同時に、ノケンの活用が意識されるようになり、ノケンの存在が守られていくことにつながるような気がします。

環境にやさしいノケンを首都ジャカルタで購入するのは難しいかもしれませんが、パプア州の州都ジャヤプラの土産物店にはたくさん売られていました。



(出所) 筆者撮影 (2012年6月3日)

(松井和久)